

(様式第8号)

長野県みらい基金 信州の特色ある学びを実践する事業・団体助成プログラム
助成対象事業実績報告書

2024年4月30日

公益財団法人

長野県みらい基金 理事長 様

申請者 所在地 長野県諏訪郡富士見町乙事4008番地1

団体名 特定非営利活動法人ふじみ子育てネットワーク

代表者 職・氏名 代表 松下 妙子

※押印は不要です

「長野県みらいベース」において当団体が掲載した「信州の特色ある学びを実践する事業・団体助成プログラム」について、下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業名

ころっく(ぽっちの森)のメンテナンス整備事業

2 助成対象事業の実施期間

2023年4月1日 ～ 2024年3月31日

3 助成対象事業の内容

冬季登園環境整備の一環での除雪対策として、また、春夏季の環境整備での下草刈対策としての必要な機材、重機の購入。このことにより園児の安全安心な登園、および保育スタッフの作業負担軽減を目指す。

4 事業の成果

事業PRが不十分であったためと考えるが、高額な機材、重機の購入は実現できず、そのため計上していた燃料費も計上できずであった。

今年度の冬季は、大量の降雪に見舞われ、2月降雪期序盤は、保育者と子どもで何日もかけて手がきによる駐車場の除雪作業を行い、除雪が完了するまでは駐車場への進入はせず、近隣の地区広場や野原での保育を行った。子ども達にとってこの作業は大変意味深いものになり、普段意識を向ける機会が少ない自分たちの園環境の整備が、知らないところで大人の力で行われている事、そういうことも力を合わせれば自分たちでもなんとかできる事を学ぶ機会となった。お父さんお母さんの車が進入できるようにと年少児から年長児まで、自前のスコップ、ソリを駆使して除雪を行い、除雪が完了しフィールドに入ることができた時の喜びは格別で達成感に包まれていた。

重機などを使っでの除雪ができなかったことにより、結果的には、子どもが自分で体験する機会を持て子どもの育ちに繋がれたが、3月降雪期後半の大雪の際には、卒園式前ということもあり、自園フィールドの手がき除雪作業は行なわず、地区の公民館を利用したの保育を行った。

そのため、本事業の目的である「冬季の安心安全な保育環境を整える」という視点において、大雪の間の保育場所の確保としての地区公民館利用の代金を本助成の経費として計上させていただく。

卒園式前の日々を、雪遊びも楽しみながら過度な負担なく過ごすことができ、本助成に対し心

(様式第8号)

から感謝の意を表する。

5 助成対象事業の実施状況を示す書類(添付)

- (1) 助成対象事業収支計算書
- (2) 事業の経過又は成果を証する書類

助成対象事業収支計算書

※下記報告書の裏付けとして、領収書のコピーを添付してください

区 分			金額(円)	内 訳
収 入	① 本助成金		26,498	
	② 自己資金 会費、事業収入、 寄付金など		9,802	保育料より
	③ その他 補助金等			
収入合計		36,300	(A)	
支 出	助成対象経費	謝礼		
		通信費		
		貸し室料	36,300	
		計	36300	(B)
	助成対象外経費			
計		0	(C)	
	支出合計	36300	(B) + (C) = (A)	

大雪がくれた多様な体験

大変でしたよね大雪。予報で数日前から「警戒」と言われていて覚悟はありましたがやはり日常生活が崩されました。そういう意味では…

「非日常」へのシフトチェンジを強いられた1週間、「災害時対応」の感覚でもありました。

み〜ちゃんは、この「大雪」の中で観た子ども達の姿に〜「保育＝暮らし」というのを改めて実感した。長野県という地に暮らす、ということはこのことで、レジャーとしてスキー場などで体験することは別物。保育の本質を感じた。〜

もりちゃんは、〜ぼっちの普段の暮らしの中で培われているものが、この大雪の中での保育でいつも以上に表面化した。大きい子が小さな子を思いやり、小さい子が大きい子を真似して大人の作業のサポートをしたりする姿に、子どもの育ちに大切なものを見た。〜

という意味のことを振り返りで言っていました。

まさにその通りだな〜と思います。「非日常」に対して、極端に不安状態になる子もおらず、「遊び」と「労働（暮らしのための作業＝雪かき）」の両方を境目なく行ったり来たりしながら楽しむ姿に、今回の大雪が幼児期を生きる子ども達にくれたものは大きなと思います。

大きくなればなるほど、暮らしのための作業は「やらされること」「やらねばならないこと」としての体験に傾いていくので、幼児期に体験するのは、子ども達に育つものが別のものになると感じています。

とはいえ、大人は大変でしたね、おうち周りや職場の大量の雪かき。この一週間、体も気持ちもへとへとになる中、子ども達の登園に必要な装備をして、雪道を運転して、送り出して下さったこと、心から感謝申し上げます。

火曜日から金曜日までの、「大積雪の中のぼっちの子ども達」の様子をまとめてご報告しますね。

火曜日



ころっくへの進入は不可能で、急遽ゲートボール場を拠点に保育をすることを決めました。子ども達の雪対策装備にご協力ありがとうございました。こういう時は一つ一つの動きがスムーズに行かず、大変ですよね。感謝しかありません。この日は10人が登園。車が出せなくておやすみ、というおうちがたくさんでした。



簡単な朝会をしてから、近くの道路に移動し、車の轍を利用して、ロングコースソリをまずは楽しみました。車の通行がほぼなく、気兼ねなくソリを楽しめました。





桂さんが、おうちから大きなソリをもってきてくださいました。

身体力

振りたての雪はふかふかで気持ちいいけど、ご存知のようにかなりの体力を消耗します。ワクワクがしんどいを上回るので、子ども達一日ハイテンションで意欲的にいろんなチャレンジをしていましたが、おうちにかえたらくたくただったと思います。その分、今日一日で身体力もアップしたでしょう。ソリは「上る」が、雪だるまは「転がす」が…楽しみの前に「試練」(笑)がついてきます。それを制したもののだけが手に入れられる快感(クライマックス、達成感)があります。そして、そこに友達がいるから、安心できる大人がいるから、前向きにチャレンジできます。





ロングソリコースで楽しんだあとは、徐々にすぐ横の雪原へ。誰も踏み入っていない広大な雪野原。子ども達はずんずん進みます。進んでから足が疲れていることに気づく、ということも。

たきぎ君とげんた君は雪原のど真ん中に雪だるまを作りました。雪と言えば雪だるま。定番中の定番ですが、作るとなるとかなり大変。最初はいいけど、どんどん膨らんでいく雪玉は、転がすのがかなりきつくなります。また、例年の富士山の積雪量では、ころがしているうちに地面が見えてきて、当然雪だるまも泥混じりになります。でも今日は真っ白！！二人ともしんどいからもうやめるとならず、このくらいにしておくとかさを妥協することもなく満足のいく雪だるまを創り上げました。このあと金曜日まで毎日、この雪だるまにハグをしにいくたきぎ君でした。気持ちわかります。

昼食はゲートボール場で。雪遊びであったまった体もお弁当を食べるのにじっとしている間どんどん冷えてきて、お箸やフォークを持つのに手袋を外していると、手もどんどんかじかんできて、食べ終わる頃には涙が出てきたういちゃん。午後、ころつの駐車場で雪かきをして、再び体がぼかぼかになり、よかったね。



午後は、歩いてころつくを見に行きました。お母さん、お父さんの車が入れるように、少しずつでも雪かきをしようと、子ども達も一緒にしました。この日は、桂さんがいてくれたので、県道から駐車場入り口までの道は一気に除雪できました。掻いた雪を大型そりに載せて運び、自分たちのカマクラ作りに使っていたのはたきぎ君、げんた君でした。



水曜日



今はころつくにトイレ棟がありますが、それまでは子ども達は簡易テントで災害時用トイレを使っていました。そしてそれは今も冬の井戸尻の日に使っています。保育場所が変わろうとも、ご飯と簡易トイレが保障されていれば、ぼっちの子ども達は大丈夫、ということを確認しました。そうは言ってもトイレは一つなので、間に合わない時は野 SHON でも対応可、の子ども達でした。その時の環境に適応できる力は、実体験がなければなかなか育ちません。



トイレ待ちの列



日常に裏付けされた非日常



一日中快晴でしたので助かりました。青い空に白銀の世界、そして幼い子ども達。もうため息がでるくらいの命の美しさをみました。

昨日より、登園できるようになった子が増えて、にぎやかさもアップ。お互いに刺激し合って遊びをどんどんと膨らませていきました。ソリは、ブレーキのかけ方を知らなかった子が上手にかけられるようになり、2 連結、3 連結、4 連結とチャレンジ。失敗しても大笑い。遊びの中のこういった何気ないシーンも、日常の自然体験が確実に子ども達を成長させているからみられる姿だと思います。ちょっとした時間にも、カマクラをつつたり、動物の痕跡に目を止めたりする姿も、もちろん日常に培われた感性がみごとに発揮されていました。

大雪は大人は大変です。早く日常生活を取り戻すために、ひたすら雪かきをしたり、車での移動にいつもより時間や注意を要したり。でも、保育に関しては、構えることはないんだ、子ども達をよく観ていたら、どうすればいいかが見えてくる、ということも、月曜日、雪が降りしき中、外でたくましく過ごしたこいち君、みちちゃん、ごだい君の姿から改めて感じ、その後の保育を紡ぐことができました。



午後は今日もころっくの駐車場へ。今日は、なんとかころっくまで歩いて入る道を作ろうと話しました。平坦な場所の雪かきに併せて、歩道の雪かきも子ども達は頑張ってくれました。雪かきは疲れる、といいながらも目標のころっくまで、と。おかげで、ころっくまでの歩道が開通、滑り止めの木くずも撒き、ならしてくれました。駐車場も、3 分の 1 は地面が少しみえるくらいになりました。続きはまた明日、ということで、心地よい？疲れを感じながらゲートボール場に帰りました。





延長保育のおやつを食べた後に、たきぎ君、げんた君、とうちゃん、ごだい君、なつき君が駐車場の雪かきの続きをどうしてもしたい、と言ってきて、異例ですが、ゲートボール場で遊ぶチームと駐車場雪かきチームの2グループに分けられました。移動中、県道を渡るタイミングで除雪車に出会い、間近で除雪作業を見ました。「かっこいい～」と目がキラキラ。その気持ちのまま駐車場について、みんな雪かき作業に集中。これでかなり作業が進みました。

雪かき手伝うよと来てくれたしゅんすけ君に、とうちゃんが「しゅんすけくん、ありがとうね」と言っているのを聞いて、子ども達にとって、駐車場の雪かきは自分事になっているのだなと感動しました。



木曜日

暮らしの営みが自分事に



あさ、ころっくの雪の上に小さな動物の足跡を見つけました。

月曜日から始まった雪による非日常生活がそろそろ日常に変化してきた今日。虹組さんを含め20人以上の子どもが登園しました。今日は、朝会をせずに、すぐころっくに移動しました。お父さん、お母さんがころっくの駐車場にお迎えに来られるよう、みんなであともうひと踏ん張りして雪かきをしようということで。雪かきスコップを持参してくれる子どもも多かったです。





駐車場に着いたら、短い朝食をしてさっそく雪かき。子ども達は、大人がスコップですくった雪をソリで雪捨て場に運ぶ役をしてくれました。大雪災害地で見える映像で、大量の雪をダンプが雪捨て場所まで運ぶのを見たことがあり、子ども達のソリはいつのまにか「雪ダンプ」と呼ばれ、雪ダンプきましたよ〜雪をいれてくださ〜い、雪ダンプこちらにもきてくださ〜い、と活発に声をかけあって、しんどいはずの雪かきが楽しくどんどん進みました。労働のあとは、楽しみなお弁当の時間。お母さん、お父さんが作ってくれたお弁当が子ども達の心と体を満たします。たきぎ君、はる君、みはる君が食べながらクイズの出し合いっこを楽しんでいました（写真上）しばらくすると、食べ終わった子達がわらわらと集まってきて、クイズ大会に拡大していました(笑)
お弁当後、昨日開通した小道を通して、ころつくに足を踏み入れました！ホームに帰ってきました。ころなしか、子ども達の表情が緩んだように観えました。



デッキの雪下ろしをする子、いつものままと道具で雪まごを楽しむ子、スタッフと雪合戦を始める子、そこにあるのは「自由」でした。「自分事としての暮らしの中の労働」と「自由が保障される時間」この両方のバランスが絶妙でした。子どもは小さいからと、大人が全ておぜん立てして環境を整えるのではなく、子どもと一緒にできることで自分たちの暮らしの環境を整えることに気持ちを寄せる。この事が子ども達に意識化しやすいのが、今回の雪かきだったなと思います。
大雪が降ったら、大人が夜中や早朝に雪かきをして、子ども達が来たらすぐにいつものように過ごせる環境を用意しようとする、大人（スタッフや保護者）が疲労困憊します。（一昨年はそういう風にして、お父さん 2 名と松下で夜に駐車場の雪かきをしたのですが、これは大変だな、雪降ってほしくないな〜という気持ちになりました）重機があればいいのかもしれませんが、でも、移動式トイレとお弁当、そして子ども達が安全に過ごせる場所（今回はゲートボール場）があれば、少しずつでも子ども達と作業し、いつもの環境を取り戻すことができるということ、そしてその方が子ども達の心身に育つものが遥かに豊かであることを確信しました。負荷の程度のよりですが



金曜日



今日も昨日と同じようにしようということで、朝ゲートボール場からころつくへ移動する事に。出発してすぐに除雪車が作った雪の壁を乗り越えるのに、ソリが扱いにくそうだったので、子どもを先に行かせて松下がソリを移動させていたら、スツとはる君がきて、「それ俺がやるよ」と雪の壁の上に立ってくれました。すぐにたきぎ君も来てくれました。おかげで松下は、壁を超えた子ども達を見守ることができる位置に移動できました。こちらから頼んだわけではありません。小中学生もこの気づきができる子は少ないのでは、と思うくらいの気配りです。感動しました。

気持ちの温かさ



ころつくに付いたら、11時。簡単な朝会のあと、ういちゃんの誕生会をしました。そうしたらもう11時半。お腹がすいた虹さんからぼちぼち昼ごはん。遊ぶ時間ないじゃん！ではないんです。ゲートボール場でも、お母さんと離れる時に涙が出たいせい君に寄り添うあんちゃん、さちちゃんの姿、直さんが作ってくれた小山で少しの時間でもソリを楽しむ子達、ころつくまでの道をしっかり歩く子ども達。すべてが育ちにつながる大切な体験です。

この1週間、卒園を1か月後に控えたおひさま組の姿はじめ、ぼっちの子ども達の姿から「自然からいただく物の豊かさ」を再確認したと共に、毎日の自然の中の保育でスタッフの保育スキルや子ども達への関わりもさらに豊かになっていることに感動しています。



エネルギーの塊

一昨日から降り始めた雪が昨日の朝まで降り、富士見はそこそこの積雪量。
ということで、昨日は公民館の大広間で、「防寒着を脱いで身軽に過ごす一日」をはさみ、子ども達、少しリセットできたかなと思いきや、そもそもリセットが必要だったのかな、もしかしたら昨日も外でガンガン遊んだのかも…と思うくらい今日子ども達は溢れそうなエネルギーを一気に放出！！という感じでした。

そして、もうひとつ、「太陽」からもらうエネルギーというのも、改めて実感しました。
おひさまの光と青い空は本当に「元気」をくれます。気持ちがポジティブになります。

朝の会のあと、降りたてのふわふわの雪ではなく、落ち着いた沈んで固くなった雪の上を歩いて公民館裏の公園へ移動。カラフルな遊具が真っ白な雪に映えて、視覚的にも気分があがります。

エネルギー全開で貪欲に遊ぶ子ども達のパワーを痛いくらい(笑)感じながら、やけどしないよう(笑)「写真を撮る」という理由をつけて、距離を保ちながら目を細めて眺める高齢保育者でした(笑)

さらちゃんが、「さらね～前回りを続けてできるんだよ、見てて」と言うので、ファインダー越しに観ながらシャッターを押していたら、最後の着地と同時に手がツルッと滑ってペタンと雪にお尻が付き座り込んでしまいました。
その自分の動きにさらちゃん自身が思わず吹き出してこっちを向きました。
こんなほっこりするオチまでみせてくれて、さらちゃんありがとう。





雪やいろんな遊具に飛びついては、子ども同士刺激し合いながら楽しくチャレンジ（遊んでいるのですが、チャレンジに見える）している子ども達のオーラが眩しく思わずたくさん写真を撮っていました。普段は既成の遊具のない自然環境であそんでいる子ども達。たまに公園で遊ぶと、心と体がそれぞれの年齢なりにしっかりと育っていることを実感します。幼児が、集団で過ごすからこそその育ちが豊かになるということも、実感します。風組、空組、おひさま組、そして虹組、お互いにお互いのことをよく観ているなことを自分に取り込んでいます。そして、個々のスタッフが自分関わった子ども達の様子から多くのことを観て取っていることに一日の終わりの日報で触れると、とても幸せな気持ちになります。

着脱スキルが格段にアップ。

短期間で経験する機会が多かったことが、子ども達のスキルアップを早めました。



2月5日…、このあと3月卒園の会間際まで定期的にやってくる「雪」の波を思いもしない中で迎えた大雪…振り返るとこのころは、子ども達もゲーター付きのスノーブーツ、肘当てつきの手袋、肩ひも付きのスキーズボンを脱ぎ着するのに悪戦苦闘していました。スタッフのお手伝いの手が足りず主に風組、空組の「やって〜」「できない〜」コールがそこで聞かれスタッフも「はいはい、こっちが終わったらすぐいね〜」と何回伝えたか…。

その後、何回ともなくやってきた大雪の波におぼれそうになりながらもなんとか乗り、うまく着き合って過ごす中で、室内に入る、トイレに行く、雪が染み込んだ、等のたびに数えられないくらい防寒装備の着脱と向き合って経験を積んだ子ども達。

昨日公民館大広間から外に出る時にふと振り返ったら、着脱に悪戦苦闘していた風、空組の子ども達がご覧のとりの姿に…（写真↑）

直さんも、スタッフの手助けの度合いが確実に減って、自分でできることが増えていますね、と子ども達の自立を喜んでいました。

始めから「無理だろう」ではなく、自分でできるところを探して「やってみる？」という関わりの中で、子ども達はどんどん「できる」範囲を拡げていて、私たちの「これくらいはできるかな」の予想ラインを常に上方修正してくれます。自分でできることが増えることで、スタッフの手助けを待たずにすみ、早くに遊び始められること（楽しさを手に入れられる）、できることが増える嬉しさ（自己充実感）、そんなことを実感するからこそ「自分でやる」に前向きなんでしょうなと思います。

※ただ、子どもによってはできることも今はやってほしい、という心の状態の時があって、そういう時は自立の前に「受容」を優先します。



虹組さんたちのたくましさも実感しています。3学期の天候は、虹組にとっては少々？（けっこう？）過酷でしたが、登園の場所の変更、防寒装備（厚着、手袋、スノーブーツ着用）のための体の動かしにくさなどの負荷に極端な拒否反応を示すことなく（多少の拒否はあります(笑)）受け入れて過ごしています。これまでの自然の中での暮らしで培われた順応性、レジリエンスを感じています。今朝の朝の会前、自分たちが「虹組」という括りで繋がっているんだということがわかっているのか、4人で楽しそうにおしゃべりしたり、抱き合ったりしていました。年度の終わりに「地に足の着いた」育ちのオーラを放っている4人です。

今日の公園遊びの様子…、昨日に引き続きエネルギー放出の勢いがすごかったです！



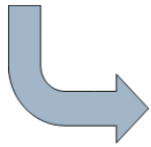
↑よ～し遊ぶぞ～と思わず駆けだす前のめり感

←水筒置き場の随分前から歩きながら水筒を体からはずす前のめり感





かいと君「まっちゃんどうやってはいたの〜？」
まっ「さんかくのところをぬけてはいたの」
の会話の後、かいと君無事半球型のジャングルジムの中に入れました！
↓



→どのタイミングでブランコを押してあげるか、一生懸命様子をうかがっているうちやん



「まっちゃんみて〜」
「うわ〜きれいだね〜」
「マイタケみたいでしょ」
「…(あ、そっち系ね…) たしかに〜(笑)」
↔



飽きたチャレンジ中の背中





2023 年度ぼっちっこ全員集合!@乙事公民館(笑)

場所がころっくではないところはぼっちらしさと捉えて(笑)ご容赦ください…

たきぎ君、お誕生日おめでとう

今年度のお誕生日お祝い会、アンカーを務める主役はたきぎ君、お母さんがお話に来てくれて青空の元楽しい時間になりました。



お母さんのえりさんが、生後 1 歳くらいまでの 1 か月ごとのたきぎ君の写真、ぼっちに入ってから写真などを紙芝居風にしてエピソードを交えてお話してくださいました。お話の合の手で入る太鼓のトーン！という音も楽しさを演出していました。直さんからのプレゼント、ポケモンの王冠をかぶって、たきぎ君照れ笑いしながらお母さんのお話を聞いていました。ぼっちではすっかり「いつも頼りになる、しっかりした薪君」ですが、お母さんのとなりで自分の赤ちゃん時代のお話を聞いているたきぎ君のあどけない笑顔に可愛らしさを感じました。そんなたきぎ君に小さな子達はさらに親近感をもったのではないかなと思います。

たきぎ君の「はじめての〇〇」というお話をたくさん紹介して下さったえりさん。子ども達、その話の魅力に惹き付けられていました。「2 人目あるある」で写真の撮り忘れ（1 か月ごとに撮ろうと思っていて、でも気が付いたら過ぎていて…）のお話には大人がみんな共感していました。今年度の最後のお誕生日お祝い会、楽しきたきぎ君の赤ちゃん時代のお話がきけて嬉しかったね。たきぎ君、この一年もどうぞ健やかに。